



家庭の同行^{どうぎょう} 8

〜ひき出されてゆく生きる力〜

茂吉(和田重良)

- 穴のあきそうな心を「充たしてくれる」もの
- つないだ手は離さない「信じている」こと
- あそこに帰れば迎えてくれること
- あんしんできる「こと」

「勉強」の前に

「学び」だ

家庭の方向性・家族の姿勢

このシリーズですと「南足柄あんしん講

座」でお話をさせていただいているのは「親と子のかかわり方提言」をテキストにしています。どんどん参加者が増えていてうれしい限りです。

さて、これから性やお金の教育についてもお話をすすめて行きますが、性やお金のことと並んで「家庭の方向性・家族の姿勢」が問われるのが「勉強」についてだと思えます。○子どもは勉強するために生まれて来たのか？ ○昔、ぼくらはどれだけ勉強してきたか？ ○勉強の成果って何だろう？……等々と考えてみると「学校って何だ」「塾って何だ」といろいろ考えが及ぶのです。

そもそも、いつも言うように「教育っていうのは教育を受けた人がしあわせになる」という目的があるのです。勉強も教育の一部ですから、勉強することによって「人間のしあわせが確保されなければならない」のです。たいいていはそうなっていますが、中には進学や成績の競争のために大変なことになって

和田重正言葉抄

われらの願い

発足三年目にして表

いよいよ第二段目の活動期に入りました。当然第三段階への跳躍を期しての出発であります。どうかわれわれの訴えよとす真意が更に一人でも多くの父母や教師の心に届くようにと願うばかりです。内外の物情騒然たる中でわが子が教える子に人間としての確乎たる進路を示し、その大道を闊歩させることが親と教師の究極の願いでなければならぬと信じます。

本誌は人生と教育について疑問や意見を持つ親と教師の語り合いの場を各所に設け、その究極の願いである理想の実現に積極的な協力をしたいと願っています。

いる家族もあります。

そうはならなくても「勉強」のために極端にやる気を失ない、道をハズしている人もいるくらいなのです。

基本は「まなび」

では、しあわせに直結する勉強ができていく子と、不幸せに向かってしまう勉強になっってしまう子の差はどこにあるのでしょうか。ぼくは時々、「この子は本当はもともとつと力の発揮できるいい子なのに」と思ってしまう子に出会います。

たいいてい「やらされ勉強」で早くから教材的知識を詰め込まされて育ってしまったので

親が言わなきゃ何もしない、できない、指示待ち、応用がきかない、発見がない、そういう子ができていくのです。

不都合なことは全部「ひとのせい」。ほめられなきゃやらない。ごほうびくれなきゃいやだ。なんてことにまでなります。

実は、そんなことにならないようにできた

はずです。「あまり早くに結果を求めない」という家庭の方向性があれば、ジツクリ「学び」の姿勢を作れたのです。

子どもの「あそび」は「学び」そのものなのです。そのことはまた次号でお話するとし「学ぶ」というのは「教わる」ということとタイミングが合っていないければならぬことなのです。

「教わる」ことは「学び」の一部です。ものすごく有効な勉強になります。ところが、そこで親のタイミングが間違ってしまったら

「だつたら教えちゃおう」と先回りするから「学び」が身につかないのです。「教わり」

たくなるようにするのが教育です。「教わりたい」タイミングをハズしてはいけないのです。

だから先回りはダメなのです。中学生以上になって、こういうボンヤリ型の子が来ると、それを修正するのに一年以上かかってしまいます。

るのであります。

重点的には本誌の狙

うところは、教育の

法や技術の検討ではな

く、また抽象的教育理

論でもありません。願

うところは一層深い人

生親の基盤から見た現

実教育のあり方を追究

家庭の方向性が「学び」に向いていてくれ

れば子どもは「興味、関心」をふくらませて

行くことができます。

「子どもが伸びる」はぼくらの願い

自分の子であろうと、よその子であろうと、

子どもでなくても大人でも、「人が伸びる」ということはぼくらの願いです。

どこまでも伸びて行って欲しいのです。せい

いっばい伸びるのが家族の姿勢です。お父さんもお母さんも「成長しよう」とする

意欲はそのまま家族の姿勢になります。「学ぶ」ということは周囲のモノやコトから

吸収して「自分の力」にすることです。学ぶという事で人間は人間らしく伸びていけるのです。

一番力のつくのは「学び」の中でも「自

問」することです。問いを作ることです。

「ハテナ？ 何でだろう？」と思うことの中に学びがあり宿題があるのです。

「ハテナ？」を思わさないようにしてしまう

ことを「ハテナ教育」と言うのです。つきつ

きりで教え込むことを「家庭の勉強」と思い

込んで、イザという時に大事な乗り越えるベ

きハードルを越えられない「人まかせ」の子

どもを作ってしまうのです。「くだかけ」では成績が人並みかどうかなんてことを問題にしているのではないのです。

一口メモ

家庭に「学ぼう」という気持ちがあれば、家族はせいっぱい伸びて行けます。勉強の楽しい本のために…。